

第37回日本総合病院精神医学会総会

パネルディスカッション2

周産期のメンタルヘルス上に課題のある 保護者と子どもへの介入を考える

メンタルヘルス上の課題を持つ保護者の養育が、子どもの情緒・行動上の問題に大きく影響します。妊娠・出産時期からの保護者の精神医学的介入と、子どもの早期の評価・介入が望まれます。

児童・青年期委員会と周産期メンタルヘルス委員会の共同企画として、医師、看護師、ソーシャルワーカー、心理師による多職種で、症例を通じた子どもと保護者に対する多角的、包括的支援のあり方を検討します。

日時：2024年11月30日（土）13:10～14:40

場所：第4会場（熊本城ホール 3F 中会議室E1+E2）

座長

竹内 崇（東京科学大学病院 精神科）
高橋雄一（横浜市東部地域療育センター）

症例提示

平山 哲（大阪母子医療センター 子どものこころの診療科）

パネリスト

須田哲史（国家公務員共済組合連合会立川病院 精神神経科）
高橋秀俊（高知大学医学部 寄附講座 児童青年期精神医学）
宮田 郁（大阪医科薬科大学病院看護部）
花村温子（JCHO埼玉メディカルセンター 心理療法室）
金子慈史（東京科学大学病院 精神科〈精神保健福祉士〉）

＜お問合せ先＞ 日本総合病院精神医学会
児童・青年期委員会 周産期メンタルヘルス委員会
jsghp37@c-linkage.co.jp